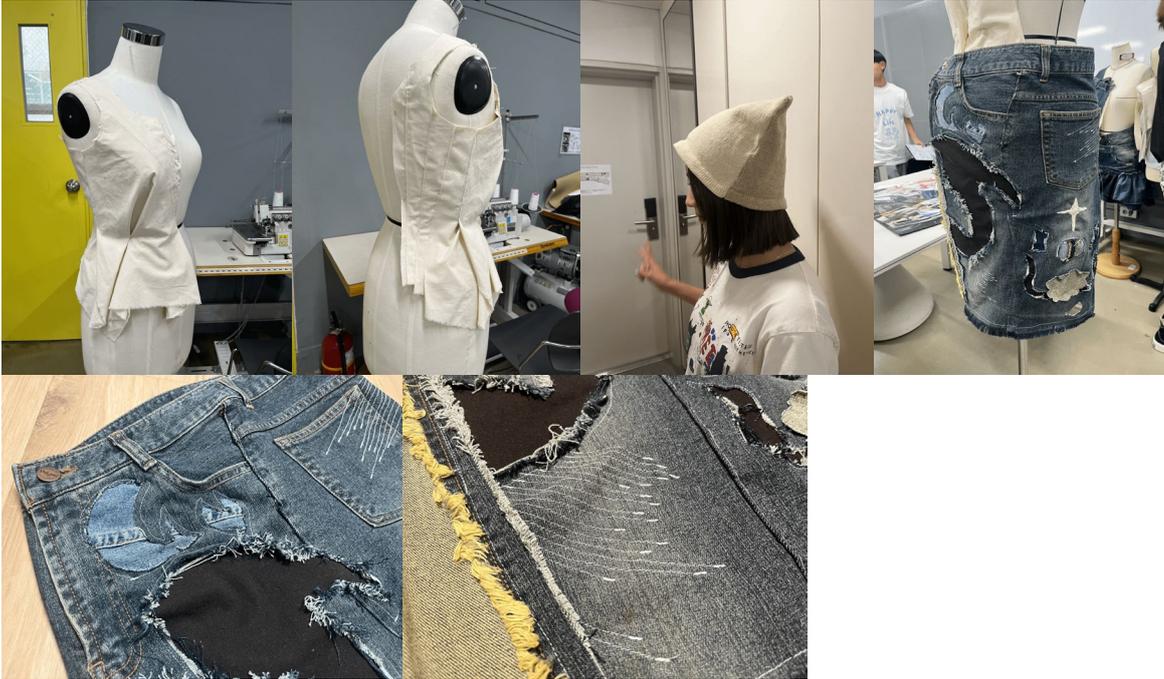


生産デザイン学科テキスタイルデザイン専攻 三年 松永李音
留学先情報：韓国 弘益大学（3週間）

●授業内容

- ・ファッションムードボード制作
- ・ドレーピング
- ・編み機を使ったニット帽制作
- ・シルクスクリーンでTシャツ、トートバック制作
- ・デニムのリメイク
- ・韓国語授業

●授業での制作物



ファッションの制作をしたのは初めてだった。

ドレーピング（1、2枚目）では、一枚の布を裁断せず服にするという体験をした。パターンにそって裁断して縫う以外にも服を作る作り方があることに驚いた。

デニムを解体してリメイクする授業（4～6枚目）では、デニム自体が身体にフィットする立体的な形のため、組み合わせてコラージュするという感覚ではうまくいかず難しかった。普段服を何気なく着ていたが、複雑な立体である身体に着せる服というのは、非常に考えられ洗練され構成されたものだということを実感した。また、学外授業で行ったソウル工芸博物館で見た、朝鮮の螺鈿の伝統工芸からインスピレーションを得て、デニム全面の模様にした。細部にこだわり、表面をくり抜いて裏から別の布地を縫い合わせ、経糸緯糸を一本ずつ抜いてダメージを施した。

●フィールドトリップ内容

- ・ソウル工芸博物館見学
- ・アンドレ・キムスタジオ訪問
- ・ヒュンダイモータースタジオ訪問
- ・サムスン訪問
- ・The Paintersパフォーマンス
- ・韓服体験

●全体の感想

授業での制作は入門的な内容だったが、ファッションをやったことがない私にとってはとても刺激的だった。一枚の布を切らずに立体の服にしたり、立体の服をリメイクして新たな服にする、という今回のファッション制作の経験から、立体的な考え方を掴めた。今までの制作では平面から考えることが多かったため、今後の制作に生かしていきたい。学外授業もかなり充実しており、韓国の伝統的な文化から現代の最新技術まで触れ体験することができた。

また、今回ソウルに滞在してみて興味深かったことが一つある。それは日本と比べて様々なところでメカニクな印象を受けたことだ。現代アートの美術館では、テクノロジーやデジタル要素を取り入れた作品がとても多かった。また都市の建築物も、シャープで近未来的なデザインが多かった。植物園の外観も、ポタニカルとは程遠い、メカニクなデザインをしていた。今まで韓国には旅行でしか訪れたことがなく、食べ物やK-POPなどの代表的な文化にしか触れたことがなかったため、今回の留学でテクノロジーの発展が進んでいる韓国だからこそその一面を感じることができ、非常に良い経験となった。